

Title	利用学生の声 サイバーメディアフォーラム no.3
Author(s)	
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2002, 3, p. 34-38
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/73108">https://hdl.handle.net/11094/73108</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

大西 絢子 (人間科学部 1年)

Windows を使い慣れているものの、Linux をさわるのは初めてでした。それでも操作性にはそれほど大きな違いもなく、使うにあたっては特に問題はありません。ただ、警告もなくウィンドウが消えてしまうなど、Windows にはない形のトラブルというのもあり、そういったものに突き当たると、かなり焦ります。情報活用基礎でLinux を使うのは、どんなOSでも対応できるように、ということだそうです。それだけでなく、どんなトラブルにも落ち着いて対応する力がつきそうだと思います。

パソコンは基本的には楽しくないものだと思います。自分のしたいことがパソコンでできたとき、楽しいと感じるのだと思います。情報活用基礎では、プレゼンやホームページ制作など色々なことをやっているの、生徒も一つは自分のやりたいことをパソコンでできるようになるのではないのでしょうか。多くの人がパソコンを使って楽しいと思える授業をこれからも続けて行って欲しいと思います。

生賀 佑美 (人間科学部 1年)

大学に入るまで、私はパソコンを我流に、つまりはいい加減に使っていました。だから、授業の中できちんと先生について学べると言うのは大変興味深いものでした。しかし、サイバーメディアセンターに入った途端、一気に不安が押し寄せました。OSがLinuxだったからです。OSといえばWindowsとMacしか知らなかった私は、名前も知らないその得体の知れないOSに非常に不安を感じました。しかし、授業を受けてもさほど不都合を感じることなく、また、ApplixSheet(スプレッドシート)の授業で学んだこと、例えば「並び替え」などをWindowsのExcelに応用できたりもしました。先生がおっしゃっていた、「ソフトの機能を理解し使ったことの無いソフトにも応用できるように」というのが少しはできるようになったかなと思っています。一人でやらざるをえなかったプレゼンも、非常にいい経験になりました。

塩貝 実希 (人間科学部 1年)

三ヶ月ちょっとの間で今までできなかったことがだいたいできるようになった。情報活用はかなり必要になってきているから、非常にありがたい教科だった。家のパソコンの今まで一回も触れたことがなかった領域もわかるようになって良かった。私が中学生の時は、三年生の時しかパソコンに触れられなかったし、basicしか出来なかったが、今の中学生は一年生のときから色々なことをパソコンでやっているようだ。時代が急速に動いているのを感じてショックだった。普通科の高校に通い、大学に進学しなかったら、全く情報処理の出来ない人間になっていただろう。中学生も出来るのだから、笑顔と体力で乗りきれ時代は完全に過ぎ去ってしまったと思う。私たちは時代の移り変わりの中で際どいところにいる。昭和末期生まれに大学で情報活用の教育をするのは、必要です。

向井 園絵 (人間科学部 1年)

授業に関しては満足しています。グラフィックスや表計算、ホームページの作成などは、学校以外にきちんと学べる場があまりないので特に役に立ちました。プレゼンテーションは意欲的に取り組むことができましたし、ホームページの作成についてもこれから頑張っていこうと思っています。ただひとつ言わせてもらうなら、宿題に問題があります。分量が多いとか、難易度が高いというわけではなく、わざわざ学校に行かないとできないということです。私は家が遠いので学校にいる時間が長くなるのは苦痛です。今や地球の裏側にいる人でも秒単位で意思疎通ができる時代なのに、このような原始的なシステムに驚いてしまいました。でも、基本的には楽しく授業を受けています。

藤本 圭太 (人間科学部 1年)

ようやく大学の雰囲気にも慣れてきましたが、この授業をはじめ、夏休みの宿題の多さと期間の短さに驚かざるを得ない状況です。

さて、4月から「情報活用基礎」の授業を受けてきて、今のところ内容は実用的で良いという印象です。各種ソフトの扱い方はもちろんのこと、プレゼンテーションなど、社会に出てすぐにでも役立ちそうな内容を勉強することができて、僕個人としては感謝しています。今回のプレゼンテーションでは、自らが情報収集を行い、それを自分の手で別の形にまとめあげ、さらにそれを外部に向けて発信するという、これからの時代では必須とされる(当然大学生もマスターすべき)能動的な姿勢が要求され、良い経験になったと思います。また、ウェブページを通じて、他の受講生の考えに触れることができるのも、この授業の魅力です。僕が思うに、今のところこの授業が一番「大学生に相応しい」ものであると感じています。

ただ、大学生になってから初めてパソコンを扱う人をも対象とした授業であるにも関わらず、プリント類の配布があまりなかったり、(授業の進捗の問題があるせい)分かりにくい部分を十分な説明がなされないまま終わってしまうのは大きな問題です。「メディアリテラシーの向上には、自ら積極的にパソコンの勉強ができ、なおかつ疑問点が直ちに解消されるような環境が整っているのが望ましいと考えているのですが、現状では明らかにそれがなごりにされています。もう少し、カリキュラムの変更をも視野に入れた上で、この授業の意義について考えていただきたいと思います。僕の授業に対する感想・意見は以上です。この夏休みはウェブページの製作に力を入れていきたいと思っています。

大鹿 もも (人間科学部 1年)

この授業を受けるまでの私はメールができて internet (といっても yahoo! から検索するのみ) ができる程度でした。。私の家にはコンピューターがないこともあり、知識は全くなく、テレビなどから流れてくるネット恋愛やネットストーカーなどのうわさなどからコンピューターのスイッチをいれるだけでまるで自分のプライバシーを世界中の人に覗かれているような恐怖感を覚える有り様でした。祖母は AVIVA にかよっていて私よりずっとコンピューターに詳しく、情けなくいつも思っていました。この授業の中で様々なものを使えるようになり恐怖感が少しは薄れたような気がします。今日の情報化社会においてはコンピューターを使いこなすことは重要だと思いますが、技術的なことはコンピューターの学校などでもやれることですよ。大学ではネットのしくみなどの根本的なこと、また、自分の身を守る方法、倫理的なことなども (プレゼンなどで) 学べ、情報科学、コンピューターをいろんな角度から学べた点がよかったと思います。

私は古い人間なので今でもコンピューターがなかった時代はよかった(単純に私がコンピューターに人より弱いから、ではなく人間関係の在り方や人間の生き方がすごく変わってしまった気がしているのです。)という意識がぬぐえませんが、コンピューターによって人間はどう変わったのか、これからどこへ向かっていくのか、どうしたらいいのかも教えていただけると嬉しいです。

北村 初穂 (人間科学部 1年)

率直な感想を一言でいうと、無駄ではなかったがもっと改善してほしい、という感じです。図、グラフ(表計算)、プレゼンソフトなど授業でとりあげられたものはたしかに役立ちそうだが、使いこなせるようになったかといえばあまり自信がないです。できれば基本的な各ソフトの使い方だけでももうちょっとしっかり、全員ができるまでやってほしいです。そのうえで応用的な部分は、こんなこともできるよ、という紹介だけしてあとは各自でホームページ(私の希望としては冊子にしてほしい)をみながらやっていく、それを授業中にやって、やっていくなかでわからないところがあったら先生に聞く、という制度にしてほしいです。いまもそういう感じで進められていますが、もっと徹底してほしいです。授業のホームページはすごく良くできていてとても有効です。しかし、学校外からアクセスできないのはなぜなのでしょう。

この授業では、「ホームページで説明されているやりかたをちゃんとよんで確実に実行すればコンピューターは指示通りに動いてくれるのだ!」という一見あたりまえなことですが、コンピューターに拒否反応を示していた私にとっては一番の発見でした。

あと理想としては困ったときなかなか一人ではわからないときに、気軽に相談したり聞ける人がいてほしいです。よくわかって教えてくれる人に聞くのが一番早くていいと思います(人材的にむずかしい

のはわかりますが)。これと通じることですが、今後、情報活用基礎の授業がより少人数制になって、個人指導ができればいいなあと思います。どうもありがとうございました。印刷がうまくいかなかったとき親切にみてくださってメールまでくださって感動でした。さすが、人科の先生！人間愛を感じました(笑)。では良い夏休みを！

奥中 美帆 (人間科学部 1年)

これまで学校の授業という形でパソコンを使ったことがなかったので、私にとって『情報活用基礎』は毎週楽しみな授業のひとつになっています。それまで私が自分一人でなんとかできたのはインターネットとメールくらいでした。家にあるWindowsのexcelなど何をどうしたらいいかさっぱり分からず使うのが億劫になっていたと思います。そのためApplixスプレッドシートを使うとき最初は非常に不安でした。しかしいざやってみると以外と簡単にできてしまうことを知り、初めて自分で打ち込んだデータからグラフが作れた時は感動してしまいました。もし授業で学んだことを忘れてしまっても、「情報活用基礎」のトップページを見れば何を学んだか再確認できる、という点が非常に助かったと思っています。

また、特におもしろかったのはプレゼンテーションです。自分自身が分かっていないテーマだったので、まず自分が理解した上でどう説明したら相手が分かりやすいか考えながらプレゼンのファイルを作りました。読む文章とのバランスが以外に難しかったですが、自分にとって初めてのプレゼンはいい経験になったと同時に、パソコンはこんなこともできるのだということも知りました。

池田 あずさ (人間科学部 1年)

私は今までなんとなくコンピューターを利用してきました。なんとなく操作して、なんとなく「こうかな？」と推測して自分なりにある程度使いこなしてきたつもりです。このように自力で開拓していくのも楽しいのですが、コンピューターの仕組みや構造を理解して操作する方が断然世界が広がると思います。この授業を約3ヶ月受けて、私もそれなりに世界を広げられたと思います。もちろんまだまだ理解できていない点も多いですが、特に、まだ始めたばかりですが、ホームページの作成は私にとって全くの未知の世界で、1つ1つの手順が新しい発見なのです。いままで見る側だったホームページを自分が作っていく。これはいままで考えもしなかったことでした。そういう点で、この授業で私は自分の可能性を広げつつあるといえます。また同時に、なんとなくではすまない、コンピューターにまつわる危険というものも学びました。インターネット上では、軽はずみな行動がいかにもトラブルを招くかということも授業でのプレゼンを聞いて痛感し、いままで何のトラブルにも巻き込まれなかった自分はラッキーだったのだなと思わざるをえませんでした。今後も、自分の知識をいっそう増やしていくつもりで取り組みます。

須原 香奈子 (人間科学部 1年)

4月から今日まで、約3ヶ月間、情報活用基礎の授業を受けてきました。この授業を受ける前までは、自己流でインターネットをみたり、メールを送ったりしてるだけで、IT、情報化社会の波にはかなり乗り遅れていました。家族も、家にコンピューターはあるけれど、使うのは一日に一度、気が向いたときに、メールをチェックするくらいでした。情報活用基礎の授業で、インターネットの効率的な使い方(調べたい情報はやく引き出す方法など)や、統計の計算の仕方や、グラフの作り方などを習い、少しコンピューターを使えるようになりました。大阪大学サイバーメディアセンターの一番良いところは、授業の空き間にちょっと寄って、インターネットを気軽に使うことができることです。今は一人暮らしをしていて、VAIOのノートパソコンを買ったのですが、インターネットにはつなげていないので(つなぐとお金がかかるので、インターネットを見るにはサイバーを利用しています。)、使うのは専らレポート用です。この前は、習ったばかりの統計の表で、統計学A-Iのレポートを作成しました。情報活用基礎の授業では、かなり実用的なことを教えてもらえたと思っています。

岩田 優子 (人間科学部 1年)

私は、大学にはいるまではパソコンと言えただだメールを送るくらいで、どのようにしてメールが相手に届くのかということさえも知りませんでした。ましてや、表計算ソフトなど、使ったこともありま

せんでした。大学に入って情報活用基礎の授業を受けているうちに、ようやくパソコンを「使っている」という感覚が持てるようになってきました。

大学における情報活用基礎の授業のよいところは、一人一人が必ず一台のパソコンを使うことができることです。しかし、90分という長い時間に一人で一台のパソコンを使えるわりに、実際に授業内でパソコンを使った時間は大変短かったのではないのでしょうか？ただ授業で説明してあとは課題をやらせる、というよりも授業内で、もっと実践的な練習がしたかったです。たとえば、最初から一人でプレゼンテーションを作ることを目的としていればもっと力がつくのではないのでしょうか？

川田 陽子 (人間科学部 1年)

私はこの授業を受けて今まで以上にパソコンに興味がわいてきました。今までは友だちとのメールやチャット、インターネットをちょっと見るくらいしかできなかったのに、いまではより多くのことができるようになったと思います。一番すごいなおもったのはプレゼンテーションでした。他人ののものを見ても「こんなことができてすごいなー。」と思っていたのに、自分で作ってみてより感動が大きくなりました。さらにプレゼンテーションを聞くだけでも、とても勉強になったと思います。

私はプレゼンで「知的財産」について調べたのですが、今のインターネット時代では人の権利の侵害は日常茶飯事になってしまっているんだなあと思いました。ネットストーカーなんかはネット上に流出してしまっている個人情報悪用したとても問題となっている犯罪です。しかし前にテレビでみたのですが、逆にネット探偵というのもあって、ネットストーカーに悩まされている人を助けている人々もいます。私の将来の夢はカウンセラーなのですが、それは悩んでいる人をその苦しみから助けてあげたいと思うからです。私は情報活用基礎で得た知識をネット探偵とまではいなくても、できる限りそういう苦しみを受けているひとを助けるために利用していきたいです。

八津尾 あゆ美 (人間科学部 1年)

私は今まで、インターネットで様々なサイトを見るためだけにパソコンを使っていました。メールは携帯で事足りていたし、無理して面倒な事を覚えるより、手作業の方がいいと思っていたのです。ところが、パソコンというものがどんなに便利か、情報活用基礎の授業を受けていくうちにわかりました。例えば、表計算やグラフ。あっという間にできてしまう事に感動すら覚えました。絵や地図だって、これほどきれいにできるとは知りませんでした。プレゼンテーションのファイルを作ったりするのは本当に楽しかったです。自分の操作によってプログラムが実行される感覚というのは本当に不思議です。授業を通して、私はパソコンを「使える」ようになった気がします。もちろんまだまだ全然ですけど。これから勉強していくうえで、いろいろ使うことも多くなるかと思っています。さらには、生活していくうえでも。

最近、暇さえあればサイバーメディアセンターに来ています。私は授業の内容を必ずしもすべて習得出来ている訳ではありません。しかし、私にしては大きな進歩です。もっと早くにこういうことを知っていたら、とさえ思います。これからももっとたくさんのことを学んで、上手にパソコンを利用していきたいです。

中須 ゆうか (人間科学部 1年)

サイバーメディアセンター。この名前を聞くだけで、入学当初の私はおびえきっていました。いままですパソコンはおろか、あらゆる機会を最大限回避して18年間生きてきた私にとって、情報活用基礎の授業なんて想像もできない曲者に思えました。ところがはじめてみると、宿題こそあれ、基礎から順を追って教えてもらえるこの授業は、私の心強い味方となってくれました。いまでは、やはり失敗することもパニックになることもありますが、パソコンに触れない日はほとんどありません。それほど、私の生活のなかでパソコンの果たす役割が大きくなったと言えます。また、パソコンを楽しめるようになってきたとも言えます。最近、他大学の友だちのホームページなどを見ながら、自分のページをもっとグレードアップできないかと、試行錯誤の毎日です。まだまだわからないことも多いですが、もっとパソコンと上手に付き合っていけるように日々精進したいと考えているところです。

大学に入学したとたん、授業の課題を添付メールで提出するように求められたときや統計の授業を受けているときなど、ある程度のパソコンを利用する能力を必要性を感じずにはいられない機会に多々遭遇するようになりました。学校の授業でパソコンを使うのは、個々の技術レベルにかなり差があることもあり、授業の速度が速いと思うことも遅いと思うこともあるし、大学のパソコンに触れる時間が少ないために課題提出が少し苦痛な時も確かにありますが、現在の学生としての生活はもちろん、将来パソコンがさらに普及して何らかの形でパソコンを利用したコミュニケーションがもっと一般化した社会が容易に想像できることを考えれば、この授業はとてもありがたいです。

夏休みまでの授業で私に最も有益だったのは、スプレッドシート (ApplixSheet) の使い方を教わったことです。このおかげで、今まで開いたこともなかった自宅の Windows の Excel を使って、表の作成や計算ができるようになりました。情報活用基礎以外の教科のレポートにもさっそく利用できて、感謝しています。